



# 郷小だより

浜之郷小学校

2月号

2022. 1. 31



学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

## 『不安から差別を生み出さぬよう、冷静に・適切に』

校長 高橋 励

茅ヶ崎市のホームページに「市立小・中学校の学級閉鎖等の状況について」として情報が掲載されています。件数は増えていきますので不安に感じるのは当然。一方で、子どもの学びを守るためには大人の冷静で適切な対応も必要です。茅ヶ崎市教育委員会から保護者あてに配付された文書（1月21日付）に示されている内容をもとに今の状況を考えます。

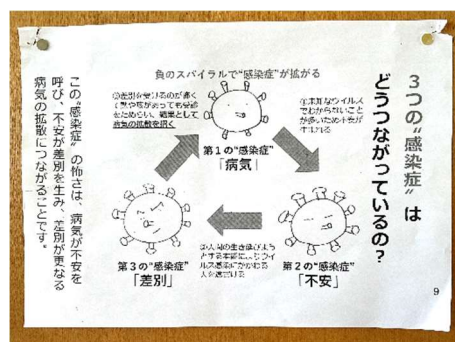
新型コロナウイルスについては、①学校内で②感染者（1人でも）が確認され、③校内での濃厚接触の確認に時間がかかる場合、拡大防止策として学級閉鎖（臨時休業）とすることがあります。（例えば、インフルエンザの流行などは感染者1人では閉鎖はしません。相当早いタイミングでの拡大防止の対応です。）

また、①感染者が確認された学級で②未診断の風邪症状の児童が複数確認されたり、③経路不明の感染者が複数いたり、④濃厚接触者がいたりして、拡大が広がっている可能性が高い場合に、原則5日間の臨時休業とすることがあります。

濃厚接触とされる接触は①マスクなしで、②1m以内の範囲で、③15分以上の接触が目安とされています。

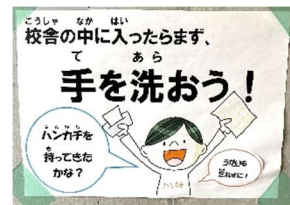
おかげさまで、発熱などの症状がみられる場合の医療機関への受診など、各ご家庭で適切

にご対応いただいております。子どもたちも学校生活でのマスク着用に取り組んでくれています（ときおり“お鼻”がでてしまう人もいますが…）ので、リスクはその分軽減されています。



ところで、こちらが校内の掲示物の一つ。感染症拡大

当初に、わたしたちが心がけるべきこととして話題になりました。感染者となる可能性はだれにでもありません（わたしも含め）。不安から差別を生み出さないよう、今改めて心がけておきたいものです。茅ヶ崎市内の感染者数が増えていることは確かです。決して軽く考えるべきではないことですが、各ご家庭と子どもたち一人ひとりの取り組みの積み重ねに支えられて2月を迎えることができそうです。



「学校」は、子どもたちの学びの場であり生活の場です。閉鎖することなく、ともに学べる環境を継続できれば願っています。

今後とも、ご協力をお願いいたします。